

FORUM

Vol.7

大阪府立大学
高等教育開発センターニュース
「フォーラム」

第7号

CONTENTS

- 巻頭言 2
大阪府立大学理事(学術・研究担当) 中西 繁光
- FDセミナー(2007年度第1回)報告 3
- 大学院FDセミナー(2007年度第1回)報告 4
- コラム 5
特色GP採択余話
高等教育開発センター主任 高橋 哲也
- 「大学院の教育に関するアンケート」について 6
授業アンケート実施のお知らせ
- 教育全般に関するアンケート実施のお知らせ 7
FDヒアリングについて(経過報告)
- 編集後記 8



大阪府立大学
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

巻頭言

● 大阪府立大学理事
(学術・研究担当)

中西繁光

SHIGEMITSU NAKANISHI

文部科学省が主導する大学教育改革の支援プログラムは、今や多くの大学が教育改革を推進する中で重要な役割を演じているといえる。事実本学に於いても、学長はこの教育改革支援プログラムへ取組みを積極的に行うように全学に働きかけるとともに、ヒアリング対象となった申請に対しては、自ら事前ヒアリングを重ねるなど積極的である。それは、この種のプログラムに採択されることが、教育改革に積極的に取組んでいる大学としての証であり、大学の名誉と共にブランドの向上にも貢献するからである。これまで本学では‘**現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)**’で2本、‘**魅力ある大学院教育イニシアティブ(大学院GP)**’で1本が採択され、その事業を実施してきた。採択数は決して多いわけではないが、それでもプログラム実施部局においては従前にも増して真剣な教育改革が進められている。

今年、‘**特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)**’として総合教育研究機構から提案された「大学初年次数学教育の再構築」が採択された。さらに、喜ばしいことには、‘**新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム**’として、学部や専攻ではなく学生センターが提案する「WEB学生センター構想」が採択されるに至ったことである。これらの採択は2つの意味において極めて重要である。前者は、総合教育研究機構の数学グループが初年次数学教育の改善を目指して、統一教科書の作成、これをベースとした授業展開、再履修に特化したクラスの編成、数学専用の質問受付室の設置、e-ラーニング教材による授業時間外のサポートなど数学教育の改善に向けた一連の地道な努力が評価されたものである。教育の質の向上を目指す改革は単なる思い付きや、掛け声だけで一朝一夕に達成される

ものではなく、相互に関連する個々の取組みを計画的に積み重ねていくことの重要性を示している。また、後者は、学生支援に携わる職員組織である学生センターが中心となって企画したものであり、WEB学生サービスセンターのホームページを立上げ、この中でWEBワンストップサービス窓口の設置による学生への情報提供の質および迅速性の向上を図るとともに、WEBこころの相談コーナーを設けるなど、教学支援から生活・心理相談に至るまで学生支援組織ならではのきめ細やかな学生サービスを展開する取組みである。この様な取組みを学生センター長のもと職員が中心となって企画し積極的に応募し、採択されたことは、今後本学が教育改革を進めていくにあたり教員だけではなく教職員が一丸となって改革を進めていくことの重要性を示している。

文部科学省が推進する教育改革支援プログラムでの採択は、単に補助金によって事業が迅速・効果的に進められると言う事だけではなく、むしろ、応募申請書の作成・検討過程や採択事業の実施過程を通じて教育改革とは何かを身をもって体感されるところに大きな意味があると考え。平成17年度に‘**大学院GP**’に採択された事業を実施してきた本学看護学研究科長は次のように述べている。「一つひとつのプログラムを(学生が)体験するたびに、新しい知識と経験を獲得し研究に対しておおいに動機づけられ、その研究能力を進展させていった。教員としてこのプロセスを見ていると、院生達の持つ成長への可能性と同時に、**教育に予算と労力を注ぐことによる効果を改めて実感した。**」-看護学研究科は今年も‘**がんプロフェッショナル養成プラン**’として、**近畿圏の6大学と共同申請した「6大学連携オンコロジーターム養成プラン」**が採択された。

REPORT

FDセミナー (2007年度第1回)

報告

FDセミナー(2007年度第1回)は、6月29日(金)午後4時30分より、寺崎昌男先生(立教学院本部調査役・東京大学名誉教授)を講師としてお招きして、開催された。テーマは、「FD・SDと大学教職員の専門性をどう考えるか」であった。

98年の大学審議会の「答申」以降、高等教育政策がめまぐるしく変化していくなかで、今回、FDの「義務化」という問題が起こった。寺崎先生は、FDの義務化は、大学教員の専門性論も合わせて論じられなければならない、「実践性と共同性」「テーマ設定の自由」「参加の自発性」等がキーワードになると語られた。FDについては、アメリカ等の興味深い文献を紹介しながら、FDがたんなる授業能力の向上にとどまることなく、さまざまな形のFD活動を展開していく必要性を訴えられた。義務化とは、上から押し付けられるものではなく、「課題」を自ら発見していくことが大切であると話された。

このセミナーで寺崎先生が話されたSD、すなわちスタッフ・ディベロップメントに関する議論は、本学では初めてのことであったであろう。大学職員にも「企画力」が求められること、意思決定過程に、教員だけでなく、職員も参加していく必要があることを、例を挙げながらお話しされた。

なお、今回のセミナーの参加者へのアンケートにおいて、マイクの調子が悪く聞き取りにくかったという指摘を多く頂いた。この場をかりてお詫びをするとともに、改善に努めたい。参加者は、169名であった。

(高根・木船)



大学院FDセミナー (2007年度第1回)

報告

本学では初めてとなる大学院FDセミナーが7月31日(金)午後4時30分より開催された。

学部教育だけでなく、大学院での教育活動においても、各研究科が、FDについて積極的に取り組み、博士前期課程・後期課程の教育を充実していく必要がある。実際、大学院にも

FDの義務化という課題が提示されている。今回のセミナーでは、「大学院教育改革支援プログラム」の内容を中心に各研究科でのFDへの取り組みが発表された。

各研究科の「大学院教育改革支援プログラム」のタイトルとセミナーでの発表者は下記のとおりである。

- | | | |
|------------------|---------------------------------|------------|
| 工学研究科 | 国際武者修行実践教育プログラム(国際競争力の実質化) | 川本 俊治 先生 |
| 生命環境科学研究科 | 農学的生命科学における専門応用能力の育成 | 大木 理 先生 |
| 理学系研究科 | ヘテロ環境でのコミュニケーション能力開発 | 入江 幸右衛門 先生 |
| 経済学研究科 | 組織改革を志向するファシリテーター養成 | 松川 滋 先生 |
| 人間社会学研究科 | ミクロ・メゾ・マクロをつなぐ社会福祉学 | 児島 亜紀子 先生 |
| 看護学研究科 | 高度実践型看護専門職活性化プログラム(教育・研究・実践の融合) | 町浦 美智子 先生 |



なお、参加者は、129名であった。

(高根・木船)

特色 GP採択 余話

「大学初年次数学教育の再構築」という取組で今年度の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択されました。取組自体の内容はあちこちで書いたり話したりするので、ここでは採択までの道のりについて紹介します。

実は、GPの申請に関わるのは3回目です。（前の2回は代表者ではありませんでしたが。）最初は、平成15年度で特色GPが始まった年でした。まだ、GP（Good Practice）

という略称はなく教育版COEということでCOLとか呼ばれてい

ました。当時は、こちらにノウハウがなく、PDCA（Plan-Do-Check-Act）のサイクルを廻さないといけないということすら分かっておらず、残念ながらヒアリングにも呼ばれませんでした。旧大阪府立大学総合科学部の文理融合型のカリキュラムで応募し、大学における教養教育というものを考えるバックボーンになりました。2回目は16年度で、「他大学との統合・連携による教育機能の強化」というテーマが現代GPにあり、17年度の3大学統合目前に、総合教育研究機構創立を取組として応募し、ヒアリングまで進みましたが不採択。ただ、このときも総合教育研究機構がどのような組織になればいいかという方向性を確認することができました。（これが落ちたときはかなり落ち込みました。）

過去2回の反省を踏まえ、今回は絶対に採択される積もりで取り組みました。たとえば特色GPフォーラムに参加し採択されている大学から情報を収集し、特色GP事例集を何度も読むといったことを

行ってきました。また、PDCAのサイクルが廻せるように根拠データを集め、active learningへの移行といった理念を前面に押し出すといった対策も取りましたが、機構数学グループで行っている内容をまとめたものなので書類作成は比較的楽でした。ある意味でGPを取るために必要なことを準備して実施してきたともいえます。（それで教育が良くなるならいいでしょう。）

ヒアリングに向けては、人前での練習の他に一人で30回以上練習しました。さすがに、時間配分は絶対大丈夫で、発表も言いたいことは全て言えると確信できるようになります。数学者なので、こういった訓練は受けておらず（数学は今でも黒板に数式を書いて説明するというスタイルです）良い経験になりました。当日の発表も本人としては満足できるものでした。

GPの申請は本当に大変ですが、得るものも多いと思います。また、絶対取れるという自信が持てれば通るといっても今回分かりました。GPの予算は年々増えていて、この採択状況が大学の教育力を測る一つの指標となっています。皆さん、地道な教育についての努力を文章化して申請しましょう。

（高橋）



「大学院の教育に関するアンケート」について

今年度前期より標記アンケートを学生ポータル上で実施しております。昨年度後期に授業アンケートの対象に大学院科目を含めたのですが、回答率があまりにも低く、また科目によっては受講者数が非常に少ないため、教育改革専門委員会で検討した結果、従来の授業アンケートには馴染まないとの結論に達し、匿名で自由記述中心の一般アンケートの形で、授業も含めて教育一般について大学院生から広く意見を募ることとなり、今回のアンケート実施の運びとなりました。具体的には、下記の項目について質問しております。後期も引き続き実施いたしますので、大学院生を指導されている先生方におかれましては、ぜひ回答するようご指導の程お願い申し上げます。

- Q1** . あなたが今年度前期に受講した授業で、特に良かった点または改善してほしい点があれば記入してください。(科目名・担当教員氏名を明記すること)
- Q2** . 本学大学院の教育について、授業以外(研究指導など)で特に良い点または改善してほしい点があれば記入してください。(特定の教員に関わる事柄は、必ず教員氏名を明記すること)

(保田)

授業アンケート実施のお知らせ

後期授業アンケートは、下記の要領で実施を予定しております。回答率をできるだけ改善するため、対象科目ご担当の先生方におかれましては、受講学生への周知等ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 実施方法：原則として学生ポータルを通じてWeb上で実施
※経済学部の一部の科目では紙ベースで実施
- 対象科目：平成19年度後期開講科目
※新カリキュラム(1～3年生)科目は全ての科目が対象。旧カリキュラム(4年生)の科目は各学部(研究科)が指定した科目。
- 回答期間：平成19年12月初旬～平成20年2月中旬(予定)
※ただし集中講義の科目については別途設定。
※期間中に中間結果をポータル上に公開するとともに、自由記述を各科目担当の教員にフィードバックする。
- 結果開示期間：平成20年1月初旬～3月末頃(予定)

(保田)

教育全般に関する アンケート実施のお知らせ

教育改革専門委員会では、授業以外の学習指導や教育・学習環境（施設・設備など）に関するアンケートを後期に学生ポータル上で実施する予定です。平成17年度後期にも同様のアンケートを行い、その結果に基づきトイレや冷房設備などが改修されました。具体的には下記の項目について、満足度評価（6段階）と自由記述欄を設定いたします。積極的に回答するよう学生にご指導の程お願い申し上げます。

- ◎教室の設備・環境について
- ◎教育用パソコン設備（学術情報センター オープンスペース、サテライト等のパソコン）について
- ◎図書館・各学部図書室について
- ◎その他の施設・設備について
- ◎授業の履修の仕方に関する指導（カリキュラム・オリエンテーション、学科等のオリエンテーション、学生アドバイザー・教務課による指導など）
- ◎カリキュラム（履修科目の数や構成、学年配当、時間割など）について
- ◎学習をサポートする体制（Webなどによる授業についての情報提供、学生アドバイザー・教務課による指導、オフィス・アワー、e-learning、教材の入手しやすさ、自習環境、障害のある学生対象の学習支援など）について

（保田）

FDヒアリングについて （経過報告）

高等教育開発センターでは、学内でFDに関する情報を共有する方策の一環として、前期に各学部・総合教育研究機構のFDへの取り組みに関しヒアリングを実施させていただきました。ご協力を賜りました関係各位にはこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。結果は年内を目処にとりまとめ、報告書（小冊子）として発行の予定です。

（保田）

編集後記

本文記事でもお伝えいたしましたように、今年度は新しい取り組みとしてFDヒアリングを実施し、各学部・総合教育研究機構のFDの現状と今後の方針について拝聴することができ、大変有意義でした。情報の共有は、FDの推進のために欠かせません。高等教育開発センターのホームページでも、授業アンケート結果や各種イベントの開催報告など、FD情報を随時発信しております。教育改善のための参考としていただければ幸いです。

また、本誌第5・6号にて結果の一端をご紹介いたしました「先導的₁大学改革推進委託」(文部科学省委託調査研究)は、過日文部科学省に報告書を提出し、一応の落着にこぎつけることができました。学力調査などでご協力を賜りました教員各位に改めて心より御礼申し上げます。

(保田)

大阪府立大学 高等教育開発センター センターニュース “FORUM”

平成19年10月20日発行

発行者 公立大学法人 大阪府立大学
総合教育研究機構 高等教育開発センター
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1
<http://www.fd.las.osakafu-u.ac.jp/>

印刷所 くすの木印刷
〒586-0081 大阪府河内長野市緑ヶ丘北町25-21

〈編集委員〉 木松 弘一 高根 雅啓 高橋 哲也(主任) 谷口 栄一 星野 聡孝 保田 卓(副主任) 藤澤 圭子・本吉 紀子(事務担当)

この冊子は1500冊作成し、1冊あたり48円です。